

A 静かな庵と柑子の木

全文の現代語訳 | 本文の段落番号に対応

次は本教材で作成した現代語訳です。意味の同じ自然な言い換えも認めます。

①の現代語訳

陰暦10月のころ、栗栖野という所を通り、ある山里へ訪ね入ることがございました。遠く続く苔の細道を踏み分けていくと、もの寂しい様子で住んでいる庵がありました。木の葉に埋もれる水の管の滴の音以外には、少しも音を立てるものがありません。

②の現代語訳

仏に水などを供える棚に菊や紅葉などが折り散らしてあるのは、やはり住む人がいるからでしょう。こんなふうにも暮らせたのだなあと、しみじみ眺めていると、向こうの庭に大きな柑子の木があり、枝もたわむほど実がなっていて、その周りを嚴重に囲ってありました。それが少し興ざめで、この木がなかったならよいのにと思いました。

出典：兼好法師『徒然草』第11段「神無月のころ」全段

照合メモ 自分の読みと違った語や主語を確認しよう。

A 静かな庵と柑子の木

練習問題 | 答えと根拠

問1 読みと訳の区別

答え：うず

解説 「づ」を「ず」に直す。語全体の意味は「埋もれる」。
確認する内容 意味と表記を確認する。

問2 古語の意味

答え：ウ

解説 直前に「かけひのしづく」があり、静かな庵で聞こえる音について述べている。
確認する内容 正答のみ。

問3 打消しを含む訳 解答例 28字

解答例：水を引く管の滴の音以外には、少しも音を立てるものがない。

解説 「ならでは」は～以外には。「つゆ」は打消しと結び付き、少しも～ないとなる。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。
確認する内容 水の管の滴の音以外／少しも音がしないという否定。上限字数と文末を確認する。

問4 主語の補い

答え：イ

解説 山里を訪れて眺めている筆者の行動。住人との会話は書かれていない。
確認する内容 正答のみ。

A 静かな庵と柑子の木

練習問題 | 答えと根拠 | つづき

問5 推量を含む訳 解答例 30字

解答例：棚に花や紅葉があるのは、やはりここに住む人がいるからだろう。

解説 「べし」はこの場面では推量。棚に供えられたものから住人の存在を推し量っている。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。
確認する内容 棚の供え物／住人がいるため／だろうという推量。上限字数と文末を確認する。

問6 心情を表す古語

答え：興ざめして

解説 静かな暮らしに感じていた趣が、柑子の木の嚴重な囲いを見たことで薄れた。
別解・許容 気持ちが冷めて／感興が冷めて
確認する内容 意味と表記を確認する。

問7 願いを含む訳 解答例 23字

解答例：この柑子の木がなかったならよいのに、と思った。

解説 「覚ゆ」はここでは思われるの意味。筆者が実際に木を取り除いたのではない。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。例：「この木がなければよいのにと思った。」
確認する内容 この柑子の木／なければよいのにという願い／思ったこと。上限字数と文末を確認する。

問8 文脈と訳の調整 解答例 42字

解答例：静かな庵の暮らしに趣を感じていたが、実のなる柑子の木の嚴重な囲いを見て、興ざめした。

解説 「あはれに見る」から「ことさめて」へ。囲いを見て物への執着を感じたと解釈できるが、住人の性格を事実として断定しない。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。
確認する内容 庵への感動／実のある木の嚴重な囲い／興ざめという変化。字数の範囲と文末を確認する。

B 二本の矢と今の一念

全文の現代語訳 | 本文の段落番号に対応

次は本教材で作成した現代語訳です。意味の同じ自然な言い換えも認めます。

①の現代語訳

ある人が弓を射ることを習う時、二本の矢を手にとって的に向かう。師は「初心者は二本の矢を持つな。後の矢をあてにして、最初の矢をいいかげんにする気持ちがある。毎回、ただ当たり外れを気にせず、この一本で決めようと思え」と言う。

②の現代語訳

わずか二本の矢で、師の前で一本をおろそかにしようと思うだろうか、いや、思いはしない。気のゆるみは自分では気付かないとはいっても、師はこれを知る。この戒めはあらゆることに当てはまるだろう。

③の現代語訳

仏道を修行する人は、夕方には次の朝があるだろうと思い、朝には夕方があるだろうと思って、改めて熱心に修行しようと予定している。まして一瞬のうちに気のゆるみがあることに気付くだろうか、いや、気付かないだろう。どうして、ただ今の一瞬の心で、すぐ実行することがたいそう難しいのだろう。

出典：兼好法師『徒然草』第92段「ある人弓射ること」全段

照合メモ 自分の読みと違った語や主語を確認しよう。

B 二本の矢と今の一念

練習問題 | 答えと根拠

問1 歴史的仮名遣い

答え：みずから

解説 「づ」を「ず」に直す。

確認する内容 意味と表記を確認する。

問2 命令と禁止の訳 解答例 18字

解答例：初心者は二本の矢を持てはいけない。

解説 「なかれ」は禁止。「ない」と現状だけを述べる訳では、師の戒めが伝わらない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。例：「初心者は二本の矢を持つな。」

確認する内容 初心者／二本の矢／持つことの禁止。上限字数と文末を確認する。

問3 主語と理由を補う訳 解答例 34字

解答例：初心者は後の矢をあてにして、最初の矢をいいかげんに扱う気持ちがある。

解説 「たのむ」は頼りにする。「後で取り返せる」という気のゆるみが、最初の一本への態度に現れる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。

確認する内容 初心者／後の矢を頼る／最初の矢へのいいかげんな心。上限字数と文末を確認する。

問4 反語

答え：ア

解説 師の目の前で、わざと怠けようとは思わない。それでも無自覚な気のゆるみが生じるという対比になる。

確認する内容 正答のみ。

B 二本の矢と今の一念

練習問題 | 答えと根拠 | つづき

問5 指示語の内容

答え：本人が気付かない気のゆるみ

解説 直前の「懈怠の心」を受ける。師が見抜くのは、本人の自覚しない怠り。

別解・許容 初心者の無自覚な怠け心

確認する内容 意味と表記を確認する。

問6 時間関係

答え：エ

解説 夕方には朝を、朝には夕方をあてにする。いま実行することを先送りする心の説明。

確認する内容 正答のみ。

問7 推量を含む訳 解答例 22字

解答例：この戒めは、あらゆることに当てはまるだろう。

解説 「万事」はすべてのこと。「わたる」はここでは広く当てはまるという内容。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。

確認する内容 この戒め／あらゆること／当てはまるだろうという判断。上限字数と文末を確認する。

問8 全体に合う訳 解答例 47字

解答例：次の機会をあてにして先送りせず、自覚しにくい気のゆるみを戒め、今の一回に集中して実行すること。

解説 弓の後の矢と修行の次の朝夕は、後の機会を頼る点で共通する。今この瞬間の実行が結論。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。

確認する内容 次の機会への依存を避ける／気のゆるみを戒める／今の実行。字数の範囲と文末を確認する。

C 幼い日の問い

全文の現代語訳 | 本文の段落番号に対応

次は本教材で作成した現代語訳です。意味の同じ自然な言い換えも認めます。

①の現代語訳

八歳になった年、私は父に尋ねて「仏とはどのようなものなののでしょうか」と言った。父は「仏は人がなったものだ」と言う。また私は「人はどのようにして仏になるのでしょうか」と尋ねる。父はまた「仏の教えによってなるのだ」と答える。

②の現代語訳

私はまた「教えを説いた仏は、誰に教えられたのでしょうか」と尋ねる。父はまた「それもまた前の仏の教えによって仏におなりになるのだ」と答える。さらに私は「その教えを始めた最初の仏は、どのような仏だったのでしょうか」と尋ねた。すると父は「空から降ってきたのだろうか、土から湧いて出たのだろうか」と言って笑う。父は「問い詰められて答えられなくなりました」と多くの人に語って、おもしろがった。

出典：兼好法師『徒然草』第243段「八つになりし年」全段

照合メモ 自分の読みと違った語や主語を確認しよう。

C 幼い日の問い

練習問題 | 答えと根拠

問1 歴史的仮名遣い

答え：おしえ

解説 「を」を「お」、語中の「へ」を「え」に直す。

確認する内容 意味と表記を確認する。

問2 主語

答え：エ

解説 質問をする筆者と答える父が交互に示される。

確認する内容 正答のみ。

問3 疑問文の訳 解答例 21字

解答例：人は、どのようにして仏になるのでしょうか。

解説 「何として」はどうやって。「候ふ」は丁寧さを添える。方法を尋ねる疑問。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。

確認する内容 人が仏になる／その方法を尋ねる疑問。上限字数と文末を確認する。

問4 会話のつながり

答え：イ

解説 直前の質問「教へ候ひける仏をば何がをしへ候ひける」に対応する。

確認する内容 正答のみ。

C 幼い日の問い

練習問題 | 答えと根拠 | つづき

問5 省略を補う訳 解答例 34字

解答例：最初の仏は、空から降ってきたのだろうか、土から湧いて出たのだろうか。

解説 直前の「第一の仏」が省略された主語。疑問の形を残し、起源を断定する訳にしない。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。
確認する内容 最初の仏／空から降る・土から湧く／二つの疑問。上限字数と文末を確認する。

問6 可能の打消し 解答例 20字

解答例：問い詰められて、答えられなくなりました。

解説 「え〜ず」はできないという意味。「答えなかった」という単なる意志的な不応答と区別する。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。
確認する内容 問い詰められた／答えることができなくなった／過去の出来事。上限字数と文末を確認する。

問7 敬語に頼りすぎない主語判断

答え：父

解説 答えられなくなった本人が、その出来事を他の人におもしろがって語っている。
確認する内容 意味と表記を確認する。

問8 訳に表す人物像 解答例 45字

解答例：子に問い詰められて答えられなくなったことを怒らず、自分でもおもしろがって人々に話している。

解説 「わらふ」「諸人にかたりて興じき」が根拠。子を叱った、質問を禁じたとは書かれていない。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。
確認する内容 答えられなくなった出来事／笑っておもしろがる／人々に語る。字数の範囲と文末を確認する。

D 狛犬の向きの理由

全文の現代語訳 | 本文の段落番号に対応

次は本教材で作成した現代語訳です。意味の同じ自然な言い換えも認めます。

①の現代語訳

丹波に出雲という所がある。出雲の神を迎えてまつり、立派に社を造ってある。しだという名の人が治める土地なので、秋のころ、その人が聖海上人やそのほか大勢の人を誘い、「さあいらっしゃい、出雲を参拝しに。かいもちひをごちそうしよう」と言って連れて行った。みなが拝んで、たいそう信仰心を起こした。

②の現代語訳

社の前の獅子・狛犬が、背を向け、後ろ向きに立っていた。上人はとても感動して「ああ、すばらしい。この獅子の立ち方はとても珍しい。深い理由があるのだろう」と涙ぐみ、「どうです、皆さん。特に優れたことにお気づきになりませんか。ひどいことです」と言う。すると皆も不思議に思って、「本当にほかとは違っていたなあ。都への土産話にしよう」などと言った。

③の現代語訳

上人はなお知りたがり、落ち着いていて物知りに違いないという顔をした神官を呼び、「この社の獅子の立てられ方には、きっと由来のある習わしがあるのでしょうか。少しお聞きしたい」と言った。神官は「そのことでございます。いたずらな子供たちがしたことで、けしからぬことです」と言って近寄り、据え直して行ってしまった。上人の感動の涙はむだになってしまった。

出典：兼好法師『徒然草』第236段「丹波に出雲」全段

照合メモ 自分の読みと違った語や主語を確認しよう。

D 狛犬の向きの理由

Dのみ100点 | 答えと根拠

問1 歴史的仮名遣い〔8点〕

答え：いう

解説 語中の「ふ」を「う」にする。

採点の目安 正答8点。

問2 語の意味〔8点〕

答え：ウ

解説 神官は狛犬の向きを変えた行為を「奇怪」と評価している。ここでは子供たちをいたずらだと述べる。

採点の目安 正答8点。

問3 会話の話者〔8点〕

答え：ア

解説 上人が涙ぐみながら述べた言葉。「あらむ」はあるのだろうという推量。

採点の目安 正答8点。

D 狛犬の向きの理由

Dのみ100点 | 答えと根拠 | つづき

問4 推量を含む訳〔10点〕 解答例 28字

解答例：この獅子の立ち方はとても珍しい。深い理由があるのだろう。

解説 立ち方の観察と、そこから生じた推量を分けて訳す。深い理由があると確定したわけではない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。

採点の目安 立ち方がとても珍しい4点／深い理由があるという推量6点。内容点を合計後、上限字数を超えた場合は1点減点する。0点未満にせず、同じ不足を二重に減点しない。

問5 省略された主語〔10点〕

答え：神官

解説 由来を尋ねられた神官が、子供のしたことだと説明した後、狛犬を据え直して去る。

採点の目安 正答10点。

問6 結末の訳〔16点〕 解答例 24字

解答例：上人が感動して流した涙は、むだになってしまった。

解説 「いたづら」はここではむだという意味。上人がいたづらをした、という意味ではない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。例：「上人の感動の涙は無駄になってしまった。」

採点の目安 上人の感動による涙8点／むだになってしまったという結果8点。内容点を合計後、上限字数を超えた場合は1点減点する。0点未満にせず、同じ不足を二重に減点しない。

D 狛犬の向きの理由

Dのみ100点 | 答えと根拠 | つづき

問7 認識と事実〔20点〕 解答例 46字

解答例：上人は深い由来のある立て方だと思ったが、実際にはいたずらな子供たちが向きを変えただけだった。

解説 ②の上人の推量と③の神官の説明を対応させる。神官が特別な作法として置いたのではない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。

採点の目安 上人の深い由来という考え10点／子供のいたずらという事実10点。内容点を合計後、字数条件を外れた場合は1点減点する。0点未満にせず、同じ不足を二重に減点しない。

問8 文脈に合う訳の判断〔20点〕 解答例 47字

解答例：上人は狛犬の立て方の理由を知りたくて神官に質問しており、過去を懐かしんでいる場面ではないから。

解説 「ちと承らばや」と説明を求めることが根拠。「ゆかし」は文脈により知りたい・見たいなどとなる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってても正答。

採点の目安 立て方の理由を知りたいという気持ち8点／神官に質問した根拠8点／回想ではないこと4点。内容点を合計後、字数条件を外れた場合は1点減点する。0点未満にせず、同じ不足を二重に減点しない。

出典と表記について

古典原文の出典 | 現代語訳と解説は独自作成

本文は保護期間が満了した古典作品の原文です。Wikisourceの旧刊底本に基づく公開本文で確認しました。現代の翻訳・注釈や既存の試験問題は転載していません。

A 静かな庵と柑子の木

兼好法師『徒然草』第11段「神無月のころ」全段

底本：國文大観 日記草子部

参照先：[https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_\(國文大観\)&oldid=240239](https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_(國文大観)&oldid=240239)

B 二本の矢と今の一念

兼好法師『徒然草』第92段「ある人弓射ること」全段

底本：國文大観 日記草子部

参照先：[https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_\(國文大観\)&oldid=240239](https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_(國文大観)&oldid=240239)

C 幼い日の問い

兼好法師『徒然草』第243段「八つになりし年」全段

底本：國文大観 日記草子部

参照先：[https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_\(國文大観\)&oldid=240239](https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_(國文大観)&oldid=240239)

D 狛犬の向きの理由

兼好法師『徒然草』第236段「丹波に出雲」全段

底本：國文大観 日記草子部

参照先：[https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_\(國文大観\)&oldid=240239](https://ja.wikisource.org/w/index.php?title=徒然草_(國文大観)&oldid=240239)

本文の扱い

一部の旧字体を現行の字体に改め、踊り字を文字に開き、底本の割注・ルビを除きました。歴史的仮名遣いと語句は原則保持しています。段落分け・番号は教材用です。底本の違いにより、学校の教科書の本文と異なる表現があります。参照確認日：2026年10月7日。